

2024 年度

大学院保健学研究科 シラバス

[博士後期課程 2・3 年生用]

藤田医科大学大学院保健学研究科

目 次

大学院保健学研究科（博士後期課程）のカリキュラムについて	i
大学院保健学研究科の3方針	ii
修得単位数	iii
教育課程表	v
授業科目と科目担当者	vii

医療検査科学領域

生体情報検査科学分野

科 目	ページ
生体情報検査科学特別研究	1

放射線科学領域

医用量子科学分野

科 目	ページ
医用量子科学特別研究	3

リハビリテーション科学領域

リハビリテーション療法科学分野

科 目	ページ
リハビリテーション療法科学特別研究	5

保健医療科学領域

保健医療連携学分野

科 目	ページ
保健医療専門職連携学特別研究	8

保健医療評価学分野

科 目

ページ

保健医療評価学特別研究 ----- 10

看護医療科学領域

看護融合科学分野

科 目

ページ

看護融合科学特別研究 ----- 12

大学院保健学研究科（博士後期課程）のカリキュラムについて

保健学の広範な知識の修得と独創的な博士論文の作成を目指して

大学院保健学研究科長 金田 嘉清

保健学研究科（博士後期課程）保健学専攻は、建学の精神「獨創一理」の理念に基づき、修士課程で得た専門的な知識と技術に加えて、現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応することのできる人材育成を目指しています。それぞれの専門性を究める体制として、保健学研究科保健学専攻修士課程の上に位置する同専攻博士後期課程として、2024年4月に看護学領域、リハビリテーション科学領域の2領域に再編されました。高度な知識と科学的思考に基づき、地域保健福祉・医療現場と協働しながら問題が解決できる資質と、高い倫理観を有した高度専門職業人、研究者、教育者を養成し、また看護学、リハビリテーション学を架橋し、既存の学問分野の枠組みを超えた形で分野横断的に専門学術知を融合することで、学際的な視座から多様な問題を解き明かすことのできる能力を修得することを教育研究上の目的としています。

本学では、広範な保健学の知識を十分に学修していただくことを考えて、掲げたスローガンに則って独自のカリキュラムを編成しました。各分野の1年次には、共通科目の保健科学概論、保健科学研究論を通して各領域に共通する保健学の重要な概念を広く学びます。特論科目では、医療・保健専門職の知識や技術をさらに深め、各領域における最新の理論や知見を学修します。演習科目は、解決すべき課題を広く探求し、論点を解決するための思考を整理・鍛錬することを目的としています。1～3年次を通して開講する特別研究では、保健学専攻の各領域の先進的な知見の探求や、技術開発の課題検討を通じて、院生の発想力や理論を構築するスキル、能動的な問題解決能力を高めます。特別研究は継続的な研究の遂行と成果の積み上げを要するため、3年間継続して履修する科目となっています。1年次前期に研究計画を決定し、後期からその計画に基づいて研究活動を展開します。3年次には、これまで取り組んできた課題について博士論文を執筆し、筆頭著者としてこれまでの研究成果を広く社会に発信できるように、国際学術誌への投稿を行います。

本シラバスでは、科目別に履修期間、科目概要、目標、授業計画、評価方法、教材・テキスト・参考書、準備学習及び履修上の注意点を記載し、院生諸君ができるだけ主体的に学修活動を展開できるよう工夫しています。教員と院生が、学修成果が挙がるように工夫し、責任と義務を明確にとらえてお互いに努力することも大切です。院生諸君はシラバスに沿って授業全体の見通しを持ち、高い目的意識をもって意欲的に学修に取り組んでほしいと考えています。

保健学研究科での院生諸君の3年間の研究が、将来のキャリア形成の基礎として充実した日々となるよう教職員一同願っています。

大学院保健学研究科の3方針

1. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

保健学研究科 医療科学専攻博士後期課程において次のような人材を求めます。

- (1) 保健医療科学を基盤とする各分野において、科学的根拠を探究し様々な課題を解決するために研究を志す者。
- (2) 各自の研究テーマに関する新たな知見や技術の開発を通して真理を探究する熱意のある者。
- (3) 教育者、研究者、指導者を目指す志向力のある者。
- (4) 研究成果を発表し、保健医療科学の発展に寄与しようとする意欲の高い者。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学研究科 医療科学専攻博士後期課程にあつては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、基礎および専門的能力を高める講義・演習、および特別研究を体系的に科目配当し編成している。

- (1) 必修の共通(連携)科目は、各分野に共通する重要な医療科学の概念を広く学び、教育者、研究者、指導者としての学術基盤を育成する。
- (2) 専攻分野に関する科目である特論と演習は、医療専門職としての知識や技術をさらに深め、課題探求と解決能力を育成する。
- (3) 特別研究は、先端的新知見の探求や、理論構築及び技術開発における課題の解決を通して、国際誌に投稿可能な論文作成能力を育成する。
- (4) 分野合同研究セミナーは、すべての特別研究担当教員を含めた議論を通じて、発表、提案能力を育成する。

3. 卒業認定基準（ディプロマ・ポリシー）

保健学研究科 医療科学専攻博士後期課程にあつては所定の年限以上在籍して、教育の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、論文審査及び最終試験において、以下の能力を身につけていることを学位認定の基準とします。

- (1) 先行研究を基盤として独自の切り口で分析し、問題提起する能力。
- (2) 問題解決に向けて適切な解析方法や分析手法を選択実行する能力。
- (3) 各分野の専門性を高める発見や新たな技法、理論を提案する能力。

【2022 年度以前入学生】

修得単位数

1) 医療検査科学領域、放射線科学領域、リハビリテーション科学領域

授 業 科 目	修 得 単 位 数		備 考
	必 修	選 択	
共通（連携）科目	4 単位		
生体情報検査科学分野	8 単位	2 単位	各分野毎に 10 単位
医用量子科学分野	10 単位		
リハビリテーション療法科学分野	8 単位	2 単位	
合 計	14 単位以上		

2) 保健医療科学領域

授 業 科 目	修 得 単 位 数		備 考
	必 修	選 択	
共通（連携）科目	6 単位		
保健医療連携学分野	10 単位		各分野毎に 10 単位
保健医療評価学分野	10 単位		
合 計	16 単位以上		

【2023 年度入学生】

修得単位数

1) 医療検査科学領域、放射線科学領域、リハビリテーション科学領域

授 業 科 目	修 得 単 位 数		備 考
	必 修	選 択	
共通（連携）科目	4 単位		4 単位以上
生体情報検査科学分野	6 単位	4 単位	各分野毎に 10 単位
医用量子科学分野	6 単位	4 単位	
リハビリテーション療法科学分野	6 単位	4 単位	
合 計	14 単位以上		

2) 看護医療科学領域

授 業 科 目	修 得 単 位 数		備 考
	必 修	選 択	
共通（連携）科目	6 単位		
看護融合科学分野	6 単位	4 単位	
合 計	16 単位以上		

【2022 年度以前入学生】

教育課程表

分野	科目名	単位数 (時間数)		1 年		2 年		3 年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通 科目 (連携)	医療科学概論	2 (30)		2					
	医療科学研究論	2 (30)			2				
	保健医療連携展開学概論		2 (30)	2					
生体情報検査科学 分野	生体情報検査科学特論		2 (30)	2					
	生体情報検査科学演習 I		2 (30)		2				
	生体情報検査科学演習 II		2 (30)		2				
	生体情報検査科学演習 III		2 (30)		2				
	生体情報検査科学特別研究		6 (180)		1	1	2	1	1
医学分野 医用量子	医用量子科学特論		2 (30)	2					
	医用量子科学演習		2 (30)		2				
	医用量子科学特別研究		6 (180)		1	1	2	1	1
リハビリテーション 療法科学分野	リハビリテーション療法科学特論 I		2 (30)	2					
	リハビリテーション療法科学特論 II		2 (30)	2					
	リハビリテーション療法科学演習 I		2 (30)		2				
	リハビリテーション療法科学演習 II		2 (30)		2				
	リハビリテーション療法科学特別研究		6 (180)		1	1	2	1	1
連携学分野 保健医療	保健医療専門職連携学特論		2 (30)	2					
	保健医療専門職連携学演習		2 (30)		2				
	保健医療専門職連携学特別研究		6 (180)		1	1	2	1	1
評価学分野 保健医療	保健医療評価学特論		2 (30)	2					
	保健医療評価学演習		2 (30)		2				
	保健医療評価学特別研究		6 (180)		1	1	2	1	1

【2023 年度入学生】

教育課程表

分野	科目名	単位数 (時間数)		1年		2年		3年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通 科目 (連携)	医療科学概論	2 (30)		2						
	医療科学研究論	2 (30)			2					
	保健医療連携展開学概論		2 (30)		2					
生体情報検査科学 分野	生体情報検査科学特論		2 (30)	2						
	生体情報検査科学演習Ⅰ		2 (30)		2					
	生体情報検査科学演習Ⅱ		2 (30)		2					
	生体情報検査科学演習Ⅲ		2 (30)		2					
	生体情報検査科学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	
医学 分野 医用量子	医用量子科学特論		2 (30)	2						
	医用量子科学演習		2 (30)		2					
	医用量子科学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	
リハビリテーション 療法学 分野	リハビリテーション療法学特論Ⅰ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法学特論Ⅱ		2 (30)	2						
	リハビリテーション療法学演習Ⅰ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法学演習Ⅱ		2 (30)		2					
	リハビリテーション療法学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	
看護融合 科学 分野	看護融合科学特論Ⅰ		2 (30)	2						看護医療科学領域（看護融合科学分野）を専攻した場合は、共通（連携）科目の保健医療連携展開学概論を必修科目とする。
	看護融合科学特論Ⅱ		2 (30)	2						
	看護融合科学演習Ⅰ		2 (30)		2					
	看護融合科学演習Ⅱ		2 (30)		2					
	看護融合科学特別研究	6 (180)			1	1	2	1	1	

授業科目と科目担当者

分野	授業科目	単位数	時間数	科目担当者名
生体情報検査科学分野	生体情報検査科学特別研究	6	180	齋藤邦明 鈴木康司 毛利彰宏
医学量子科	医用量子科学特別研究	6	180	小林茂樹
リハビリテーション療法科学分野	リハビリテーション療法科学特別研究	6	180	金田嘉清 櫻井宏明 山田晃司 稲本陽子 田辺茂雄 武田湖太郎
保健医療連携学分野	保健医療専門職連携学特別研究	6	180	浅田恭生 寺西利生 小野木啓子 須釜淳子 竹原君江
保健医療評価学分野	保健医療評価学特別研究	6	180	毛利彰宏
看護融合科学分野	看護融合科学特別研究	6	180	須釜淳子 村山陵子 竹原君江

1. 【医療検査科学領域】

生体情報検査科学特別研究

(Graduate Thesis of Clinical Laboratory Sciences)

専攻分野 Major Field	生体情報検査科学分野	学年 Grade	1, 2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	さいとうくにあき すずきこうじ もうりあきひろ 齋藤邦明、鈴木康司、毛利彰宏、				
科目概要 Course Aims	<p>各指導教員の研究テーマにそって研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究課題の設定、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、論文の作成といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。</p> <p>(齋藤 邦明) 生体応答を病態情報解析学的側面から理解し、先制医療を中心とした病態の解明及び検査科学技術の発展に寄与する研究を行う。具体的には、プロテオーム、メタボローム解析などのオミックス解析の手法を用い、下記の項目に関する研究を中心として先制医療の実現に向けた個別医療、疾患発症予測、薬効/副作用・予後予測、コンパニオン診断、病態情報解析、Personal Health Record、コホート研究に関連する課題について研究指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アミノ酸代謝と免疫 2. 先制医療の実現/バイオマーカー研究の推進 3. 機能性食品の科学的評価 <p>(鈴木 康司) 疾病発生のメカニズム解明に寄与するとともに、新たな視点での疾病予防対策の樹立を目指し、高速液体クロマトグラフィーやゲノム解析の手法を用いた分子疫学研究の実践及び指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病の発症予防に関する分子疫学的研究 2. がんの発生要因に関する大規模コホート研究 <p>(毛利 彰宏) アルツハイマー病、パーキンソン病、うつ病、統合失調症、および自閉症などの精神神経疾患を対象に、血液をはじめとする臨床サンプルを用いた検討を行う。また、ヒトでの疫学的・遺伝学的知見をマウスに反映し、精神疾患モデルマウスを作製し、行動薬理的・神経化学的に病態・発症メカニズムの解析を行う。それら成果から新規治療薬・機能性食品および診断バイオマーカーの開発を目指し、研究成果を社会・医療に還元するトランスレーショナルリサーチを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床サンプル・モデル動物を用いた精神神経疾患の病態解明 2. 精神神経疾患モデル動物を用いた医薬品・機能性食品の開発 3. 精神神経疾患バイオマーカーの探索と診断薬開発 				
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成する。 				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-10 (1年次)	先行研究を検討・整理し国内外の研究動向を理解、研究課題の設定と研究計画書の立案、疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査申請書の作成を行う。				各指導教員

11-15 (1年次)	研究計画審査及び疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査を受けて、研究準備をすすめ、研究活動を展開する。		
16-60 (2年次)	研究計画に即したデータ収集・調査・実験、データ解析、研究結果に関する討議、データの解釈と評価、関連する文献を用いた考察を行う。学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿する。		
61-90 (3年次)	研究活動を継続し研究内容を発展させ、成果をまとめて学位論文の作成を行う。		
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。		
評価法・基準 Grading Policies	学会発表、学術論文の内容(40%)及び博士論文の内容(60%)で総合的に評価する。但し、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。		
教科書 Text Book	学術論文、パワーポイント等の資料を配布する。	教材・参考書 Reference Book	特に定めない。 必要な場合は適宜紹介する。
オフィス アワー Office Hour	齋藤:メールにて行う 鈴木:メールにて行う 毛利:メールにて行う	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	齋藤・鈴木:博士論文作成に向けての主体的な努力が、その成果以上に重要である。努力を惜しまない研究手法を学ぶ。 井平:地道な繰り返しによる実験が大きく評価される。問題にあたった場合、担当教員とよく相談すること、また、これまでの参考文献がヒントとなることも多い。 毛利:研究内容について、日々実験ノートを作成し、進捗を確認できるようにすること。それを参考に担当教員と進捗について相談し、次の研究計画を立てること。 上記のために 30 分以上の時間をかけること。	履修上の注意点 Notice for Students	博士課程の学生は、授業後に各トピックを要約することをお勧めします。

2. 【放射線科学領域】

医用量子科学特別研究 (Graduate Thesis of Radiological Sciences)

専攻分野 Major Field	医用量子科学分野	学年 Grade	1, 2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	こばやしげき 小林 茂樹				
科目概要 Course Aims	<p>医用量子科学特別研究では、最先端の放射線医療科学技術の知識を有する研究者、教育者の育成に必須の広汎な研究を行なう。</p> <p>医用画像から得られる生体情報を用いて人体の機能、構造を解析・理解し、形態や機能情報に基づいた画像診断に関連する研究テーマを中心とした最先端の放射線医療応用研究の実践、指導を行い、専門領域の学会、学術雑誌で発表し、社会に情報発信できる論文指導を行う。</p> <p>(小林 茂樹)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フォトンカウンティング型 X 線計測の原理およびエネルギー情報の活用法を理解し、フォトンカウンティング型 X 線検出器を用いた撮像画像および物質同定機能に関する基礎的検討を行い、臨床用次世代型マンモグラフィ開発に関する研究を行う。 2. CT, MRI, RI などのイメージングモダリティに関して、Artificial Intelligence (A.I.)を用いた臨床に有用なソフトウェア開発に関する研究を行う。 				
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成する。 				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-10 (1 年次)	先行研究を検討・整理し国内外の研究動向を理解、研究課題の設定と研究計画書の立案、疫学・臨床研究等倫理審査委員会、動物実験委員会への審査申請書の作成を行う。				小林茂樹
11-15 (1 年次)	研究計画審査及び疫学・臨床研究等倫理審査委員会、動物実験委員会への審査を受けて、研究準備をすすめ、研究活動を展開する。				
16-60 (2 年次)	研究計画に即したデータ収集・調査・実験、データ解析、研究結果に関する討議、データの解釈と評価、関連する文献を用いた考察を行う。学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿する。				
61-90 (3 年次)	研究活動を継続し研究内容を発展させ、成果をまとめて学位論文の作成を行う。				
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。				
評価法・基準 Grading Policies	学会発表、学術論文の内容(40%)及び博士論文の内容(60%)で総合的に評価する。但し、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。				
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	なし		
オフィス アワー Office Hour	小林:メールにて行う。		連絡先 Contact		

準備学習 Preparation of study	積極的に自主性を持ってテーマを探 求すること。	履修上の注意点 Notice for Students	
---------------------------------	----------------------------	-----------------------------------	--

3. 【リハビリテーション科学領域】

リハビリテーション療法科学特別研究

Graduate Thesis of Rehabilitation Therapy Science

専攻分野 Major Field	リハビリテーション療法科学分野	学年 Grade	1, 2, 3 年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	かなだ よしきよ さくらい ひろあき いなもと ようこ やまだ こうじ たなべ しげお たけだ こたろう 金田 嘉清、櫻井 宏明、稲本 陽子、山田 晃司、田辺 茂雄、武田 湖太郎				
科目概要 Course Aims	<p>特別研究では、活動の回復を支援する科学であるリハビリテーションに関わる研究を行う。理学療法士教育に関する研究においては、チーム医療に貢献でき、高い指導能力をもったメディカルスタッフの養成に向けた教育方法を検証する。医療の高度化、患者のニーズの多様化を踏まえた理学療法士におけるObjective Structured Clinical Examination(OSCE)を用いた臨床技術教育と臨床実習の充実性を説明する。また、臨床実習を効果的に実施するため、実習指導者の養成による実習内容を説明する。さらに大学教員と実習指導者との連携を強化し新たな教育指導体制を説明する。具体的には、臨床技術能力の標準化に向けて脳卒中、骨関節系の模擬患者をとおして臨床技術能力の実技を演習し、特別研究を行う。運動システムに関する研究においては、運動制御、運動学習、リハビリテーション工学に関する研究を行う。具体的には、動作時の姿勢制御、治療的学習、リハビリテーションロボットなどについて模擬患者での基礎的研究および患者での臨床研究を行う。それぞれ専門領域の学会、学術雑誌で発表し、社会に情報発信できる論文指導を行う。</p> <p>(金田嘉清) 療法士教育に関して、Evidence Based Medicine (EBM) の視点で研究する。加えて社会や街づくり、地域保健に関しても研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療法士教育と治療技術に関する研究 2. 療法士の臨床実習指導に関する研究 3. 学生教育、新人理学療法士教育、患者教育に関する研究 4. 療法士における地域貢献に関する研究 <p>(櫻井宏明) 高い技術力、統率力、指導能力をもった療法士教育者の養成に関して研究する。以下に研究指導テーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療法士技術の客観的評価に関する研究 2. 実習指導者の養成に関する研究 3. 養成校および実習地の連携教育指導体制に関する研究 4. 理学療法士および作業療法士の治療技術の標準化に関する研究 5. 卒後療法士の生涯学修に関する研究 <p>(稲本陽子) 「食」を再建する摂食嚥下リハビリテーションに関する研究を行い、博士論文を作成する。嚥下動態の運動学的解析や運動力学的解析にて嚥下の生理の解明、異常所見を引き起こす機能障害の特定、嚥下手技や練習法の精緻化をはかる。この過程をとおし、嚥下動態の解析方法の熟知と限界を理解すると同時に、研究法および論文作成方法、研究倫理を学ぶ。以下に具体的なテーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下動態と運動調理解に関する研究 2. 嚥下造影や嚥下 CT を用いた嚥下練習法の運動学的効果解明に関する研究 3. マノメリーを用いた嚥下練習法の解明に関する研究 				

	<p>(山田晃司)</p> <p>骨格筋をはじめとする骨、靭帯、腱、関節などの運動器について肉眼的、組織学的な知識や理論に基づき、臨床においてリハビリを行う治療過程で発生する諸問題、予後の判定などに関して、形態と構造観察に留まらないその機能解析について研究を行い、博士論文を作成する。また、神経性調節および体液性調節の生体制御分野においても同様に実施する。その中で、研究課題の考案、先行研究の進行状況を明確化、研究計画の立案、実験、考察という一連の博士論文作成過程を経て科学者として研究に対する姿勢、独創的な発想を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患モデル動物を用いた基礎研究から人への応用する予防医学的見地からの研究 2. 骨形態計測法のような構造解析方法および体液性因子を生化学的に解析する研究 3. マイオカインに代表される体液性因子による生体制御機構に関する研究 <p>(田辺茂雄)</p> <p>リハビリテーション療法科学に関わる研究のうち、特にリハビリテーション工学に関する研究を行う。リハビリテーション工学とは、臨床での問題点・要望を基に、現場で役立つ実用的な機器・手法を開発する学問であり、以下に具体的なテーマを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションロボットに関する研究 2. 動作分析手法・治療手法の開発に関する研究 <p>(武田湖太郎)</p> <p>リハビリテーション療法科学に関わる研究のうち、計測工学、リハビリテーション工学、神経科学、認知科学を基盤とした以下の計測・評価及び介入に関する研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋活動・脳活動をはじめとした生体計測に関する研究 2. 臨床評価・データベースに関する研究 3. 動作分析手法の開発に関する研究 4. 運動イメージに関する研究 	
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成できる。 	
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule	担当教員 Instructor
1-4 (1年次)	先行研究及び関連文献の検索	各指導教員
5-10 (1年次)	レビューの作成	
11-15 (1年次)	研究計画の立案	
16-18 (2年次)	プレ実験	
19-20 (2年次)	疫学・臨床研究倫理審査委員会申請書類の作成	
21-24 (2年次)	データ計測	
25-28 (2年次)	データ検討	
29-60 (2年次)	データ計測 学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿	
61-75 (3年次)	論文のフロー作成	
76-90 (3年次)	論文の作成	

長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。	
評価法・基準 Grading Policies	学会発表、学術論文の内容(40%)、および博士論文の内容(60%)で総合的に評価する。 但し、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。	
教科書 Text Book		教材・参考書 Reference Book
オフィス アワー Office Hour	金田嘉清 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 櫻井宏明 大学 8-1F-106 月曜日 12:00-13:00 稲本陽子 大学 8-7F-703 月・水・金曜日 8:00-9:00 山田晃司 大学 8-7F-707 月・水曜日 19:00-20:00 田辺茂雄 大学 8-1F-112 月曜日 12:10-13:00 武田湖太郎 七栗記念病院 メールでの質問を受け付けます。	連絡先 Contact
準備学習 Preparation of study	積極的に自主性を持ってテーマを探求すること。	履修上の注意点 Notice for Students

4. 【保健医療科学領域】

保健医療専門職連携学特別研究

(Graduate Thesis of medical and health care professional collaboration)

専攻分野 Major Field	保健医療連携学分野	学年 Grade	2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	あさだ やすき てらにし としお おのぎ けいこ すがま じゅんこ たけはら きみえ 浅田 恭生、寺西 利生、小野木 啓子、須釜 淳子、竹原 君江				
科目概要 Course Aims	<p>特別研究では、専門職連携、地域連携、国際連携、地域包括ケアなどに関する各自の研究課題を明確化し、研究計画を作成する。次に、作成した研究計画を倫理委員会に提出し承認を得る。さらに、研究を実施し参考論文を作成し公表するとともに、博士論文としてまとめ、発表を行う。</p> <p>(浅田 恭生) 従事者も含めた診断領域 X 線の被ばくに関する研究を行い、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 3 つに集約される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者が受ける線量の評価に関する研究 2. 患者が受ける線量の測定に関する研究 3. 医療従事者の職業被ばくに関する研究 <p>(寺西 利生) 医療の専門・分化が進む中、専門職が連携することによって解決できる問題が生まれている。この特別研究では、活動・介入・行動変容をキーワードとして、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 4 つに集約される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者および医療従事者の姿勢・動作に関する研究 2. 痙縮の定量計測に関する研究 3. 転倒予防・転倒危険度評価・患者マネージメントに関する研究 4. リハビリテーション介入のタイムスタディと帰結に関する研究 <p>(小野木啓子) 高齢化社会において急性期から維持期まで切れ目のない医療連携が必要とされている。この特別研究では、高齢者医療をキーワードとして博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の 3 つに集約される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の廃用症候群に関する研究 2. 患者の日常生活活動自立度と介護者の介護負担に関する研究 3. 認知症患者の摂食嚥下障害に関する研究 				

<p>科目概要 Course Aims</p>	<p>(須釜 淳子) 看護学におけるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究を行い、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。テーマは以下の3つに集約される。 1. 慢性創傷、皮膚障害の予防・管理に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 2. 日常生活援助技術に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 3. チーム医療における看護の役割と機能に関する研究</p> <p>(竹原 君江) 1. 看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防ケア・アセスメント技術開発と社会実装に関する研究 2. 臨床における研究シーズからアドバンストな新しい看護ケアを生み出し、社会実装する(広く臨床に還元する)までの一連あるいはその一部に関する研究 3. 看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究</p>		
<p>到達目標 Objectives</p>	<p>1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成できる。</p>		
<p>回数 Chapters</p>	<p>授業計画(各回のテーマ) Course Schedule</p>		<p>担当教員 Instructor</p>
<p>1-45 (2年次)</p>	<p>研究計画に即したデータ収集・調査・実験、データ解析、研究結果に関する討議、データの解釈と評価、関連する文献を用いた考察を行う。学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿する。</p>		<p>各指導教員</p>
<p>1-30 (3年次)</p>	<p>研究活動を継続し研究内容を発展させ、成果をまとめて学位論文の作成を行う。</p>		
<p>長期履修 授業計画</p>	<p>長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。</p>		
<p>評価法・基準 Grading Policies</p>	<p>課題レポート、ゼミ資料、試問(70%)と受講態度(30%)で評価する。 目標の理解度を計るため、それぞれに対するレポート、資料作成等の課題、または試問を課し、実施後に解説を行う。ただし、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。</p>		
<p>教科書 Text Book</p>	<p>なし</p>	<p>教材・参考書 Reference Book</p>	<p>なし</p>
<p>オフィス アワー Office Hour</p>	<p>浅田恭生: 大学 7 号館 3F-301 メールでの質問を受け付けます。 授業終了後及び月～金曜 17:00～18:00(要アポイントメント) 寺西利生: 大学 8-7F-704 月曜日 8:00-:30、21:10-:30 小野木啓子: 大学 8-7F-708 月曜日 17:00-17:30 須釜淳子・竹原君江: メールでの質問を受け付けます。</p>	<p>連絡先 Contact</p>	
<p>準備学習 Preparation of study</p>	<p>指定したテーマを 30 分程度、事前に予習すること。また、演習後復習を 1 時間程度行うこと。何事にも興味を持ち、積極的な態度で臨むこと。</p>	<p>履修上の注意 Notice for Students</p>	<p>ノートの編集は、手書きでもパソコンを用いてもよい。持ち物は指定がない場合は特になし。</p>

保健医療評価学特別研究 (Graduate Thesis of Healthcare Regulatory Science)

専攻分野 Major Field	保健医療評価学分野	学年 Grade	1, 2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	対面式授業	使用言語 Language	日本語(一部英語)		
担当教員名 Instructor	もうり あきひろ 毛利 彰宏				
科目概要 Course Aims	<p>医薬品(診断薬・治療薬)・医療機器・機能性食品の開発を目指し、各指導教員の研究テーマにそって研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究課題の設定、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、論文の作成といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。</p> <p>(毛利 彰宏)</p> <p>アルツハイマー病、パーキンソン病、うつ病、統合失調症、および自閉症などの精神神経疾患を対象に、血液をはじめとする臨床サンプルを用いた検討を行う。また、ヒトでの疫学的・遺伝学的知見をマウスに反映し、精神疾患モデルマウスを作製し、行動薬理的・神経化学的に病態・発症メカニズムの解析を行う。それら成果から新規治療薬・機能性食品および診断バイオマーカーの開発を目指し、研究成果を社会・医療に還元するトランスレーショナルリサーチを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床サンプル・モデル動物を用いた精神神経疾患の病態解明 2. 精神神経疾患モデル動物を用いた医薬品・機能性食品の開発 3. 精神神経疾患バイオマーカーの探索と診断薬開発 				
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成する。 				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-45 (2年次)	研究課題に関連する論文検索・精読 研究課題に関する技術・手技の習得 研究とデータの解析				毛利彰宏
1-30 (3年次)	研究課題に関して行った実験結果をまとめる 実験結果の分析 国内外での学会発表 博士論文の作成 博士論文の報告				
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。				

評価法・基準 Grading Policies	<p>評価法:研究内容、学会発表、学術論文の内容(40%)及び博士論文の内容(60%)で総合的に評価する。ただし、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。</p> <p>基準:研究内容は、研究・技術習得に積極性があり、それに基づく進捗を評価する。博士論文は、研究成果およびそれに対する考察を評価する。</p> <p>フィードバック:研究内容に基づく質疑応答を実施し、その進捗指導を行う。</p>		
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	なし
オフィス アワー Office Hour	毛利:大学 3-3F-328 水曜日 10時30分～11時30分	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	研究内容について、日々実験ノートを作成し、進捗を確認できるようにすること。	履修上の注意点 Notice for Students	積極的な研究を期待する。

5. 【看護医療科学領域】

看護融合科学特別研究 (Graduate Thesis of Nursing Integrated Sciences)

専攻分野 Major Field	看護融合科学分野	学年 Grade	1, 2, 3年	期 間 Semester	通年
授業形態 Style	演習	単位 Credits	6 単位	時間数 Hours	180 時間
授業方法 Class Methods	遠隔または対面式授業	使用言語 Language	日本語		
担当教員名 Instructor	すがま じゅんこ むらやま りょうこ たけはら きみえ 須釜 淳子、村山 陵子、竹原 君江				
科目概要 Course Aims	<p>特別研究では、看護学におけるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究を行い、博士論文を作成する。その中で、研究テーマの選択、先行研究のレビュー、研究計画の立案、実験・調査、考察という一連の論文作成過程を学ぶ。また、博士論文の作成を通じて、科学者の良心・倫理観、研究に対する姿勢、独創的な発想、研究のありかたを学ぶ。</p> <p>各科目担当教員の主要研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>(須釜 淳子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性創傷、皮膚障害の予防・管理に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 2. 日常生活援助技術に関わるエビデンスの構築とその社会実装に関する研究 3. チーム医療における看護の役割と機能に関する研究 <p>(村山 陵子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エビデンスのある看護技術の創生と社会実装のためのシステム構築に関する研究 2. 看護技術普及のための教育プログラム開発(教材開発・人材育成を含む)と社会実装に関する研究 <p>(竹原 君江)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防ケア・アセスメント技術開発と社会実装に関する研究 2. 臨床における研究シーズからアドバンストな新しい看護ケアを生み出し、社会実装する(広く臨床に還元する)までの一連あるいはその一部に関する研究 3. 看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究 				
到達目標 Objectives	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を決め、関連文献を調査できる。 2. 研究推進の骨格を決め、研究手法を会得し研究を実施できる。 3. 研究結果の解釈と考察が論理立ててできる。 4. 博士論文を作成できる。 				
回数 Chapters	授業計画(各回のテーマ) Course Schedule				担当教員 Instructor
1-10 (1年次)	先行研究を検討・整理し国内外の研究動向を理解、研究課題の設定と研究計画書の立案、疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査申請書の作成を行う。				各指導教員
11-15 (1年次)	研究計画審査及び疫学・臨床研究等倫理審査委員会、組換え DNA 実験安全委員会、動物実験委員会への審査を受けて、研究準備をすすめ、研究活動を展開する。				
16-60 (2年次)	研究計画に即したデータ収集・調査・実験、データ解析、研究結果に関する討議、データの解釈と評価、関連する文献を用いた考察を行う。学術論文を作成し、専門の学術雑誌へ投稿する。				

61-90 (3年次)	研究活動を継続し研究内容を発展させ、成果をまとめて学位論文の作成を行う。	各指導教員	
長期履修 授業計画	長期履修学生は、履修期間に応じて研究指導教員と相談し、授業計画を立てる。		
評価法・基準 Grading Policies	課題レポート、ゼミ資料、試問(70%)と受講態度(30%)で評価する。 目標の理解度を計るため、それぞれに対するレポート、資料作成等の課題、または試問を課し、実施後に解説を行う。ただし、分野合同研究セミナーへの参加を必須とする。		
教科書 Text Book	なし	教材・参考書 Reference Book	なし
オフィス アワー Office Hour	指導教員が授業後の30分間オンライン またはメールにて対応	連絡先 Contact	
準備学習 Preparation of study	指定したテーマを30分程度、事前 に予習すること。また、演習後復習を1 時間程度行うこと。何事にも興味を持 ち、積極的態で臨むこと。	履修上の注意 点 Notice for Students	ノートの編集は、手書きでもパソコンを用 いてもよい。持ち物は指定がない場合は 特になし。